

(表紙)

天保十三壬寅歳三月

# 従御公儀五人組御條目

摂州武庫郡

西富忝村

孫左衛門持傳

※付箋あり

「西富松村孫左衛門とは

吉田武兵衛(初代)の兄 吉田惣兵衛(六代目)の

妻トミの実家に當たる

吉田久記」

二ページ右

條々

一 前々從 公儀度々被 仰出候御法度書之趣

弥以 堅かたく 相守御制法之儀不相背そむく 様村中小百姓

下々迄可申付事

一 五人組之儀町場まちば 八家並なみぎいごう 在郷もより 八取寄次第家五軒

宛つ組合子供并下人店借時借之者ニ至迄悪事

不仕様組中常々無油断だん 可令詮議せしむせんぎ 若徒いたつら もの

二ページ左

三ページ右

有之て庄屋之申付をも不用候ハ、可訴出事

一 毎年宗門帳三月迄之内ニ可差出若御法度之

宗門之もの有之者早速可申出切支丹宗門之儀

御高札之旨可相守宗門帳之通人別人念相

改宗門帳相濟候て御召仕候下人等ハ寺請状別紙

可取置事

一 五人組帳宗門帳ニ押候外別ニ印判 拵 置申

間敷候若子細候て印判替候ハ、庄屋年寄五人

三ページ左

組え相断勿論此方え差出候印鑑帳可相改

且又名を改候ハ、庄屋方え相届五人組町ニも

改候名を可記事

一 印形 猥 二手放し人頼いたし押問鋪事

一 父母え孝行尽し兄弟一族と睦しく仕

正直実躰ニ可相 嗜事

候脱カ

一 一切支丹 轉ひ之者并類族有之ハ、別帳ニ記之切支

丹奉行え差出置之若他村方縁組等ニて当村へ

#### 四ページ右

右之族やから 来候ハは早速可注進事

一 田畑并山林等永代賣買御停止ニ候若質物ニ

入候ハ、庄屋年寄證文ニ可致印形一村ニ免状めんじやう

老本ニ候ハ、庄屋何人有之候共加判可為仕田畑

質ニ入金銀を借田畑を金主え作らせ候て御年

貢は地主方出候儀不可仕事

一 衣類道具いるい又は門橋等もんはし之はつし金物類

出所不知物一切買取間敷右之品々質ニ取

#### 四ページ左

又は預り置へからす出所知れ候物ニても請人無

之候ハ、質物ニも取間敷事

一 惣て家業かきやうたい第一ニ勤つとむへし百姓不似合にあい之遊藝ゆうげいヲ

好或は悪心あくしんを以公事好くじをいたし非公事を

勸メすゝめ 偽いつわり たくみ人々害をなす者有之ハ不

隠置可申出何事ニ不依神水を吞誓詞せいしを書

候て申合一味同心致徒黨とんどうケ間敷儀不可仕事

一 盜賊惡黨とく者有之は訴人そ可仕尤あだなさゞ

五ページ右

る様ニ可仕事

- 一 百姓衣類之儀木綿之外不可着之綸子紗綾  
縮緬之類るいゑり帯おびニも致間敷事

附男女共乗物のりニ乗へからす惣て家作等目立候

普請奢ケ間敷儀仕間鋪事

- 一 婿取嫁取之祝儀奢ケ間敷儀無之分限より  
軽可仕大勢集り大酒不可呑所ニ寄蚊帳之  
祝新宅之弘初産之祝不相應之祝仕候儀可為

五ページ左

停止分限ニ應し内証ニて軽可仕候葬礼之  
儀も右ニ准し可申事

- 一 捨子堅不可仕若他所之者捨置候ハ、村中ニて  
養育いたし早速可注進事

- 一 生類憐之儀心懸不實無之様可仕候不仁之  
儀ハ一切不仕事

- 一 獵師たりといふ共鶴白鳥取之候儀御停止  
ニ候若村中ニ鶴白鳥商賣いたし候ものあらハ

六ページ右

可訴事

一 新地しんち之寺社じしや建立こんりう之儀堅く可為停止惣てほ

こら念佛たい題目石塔くやうつか供養塚か庚申塚地蔵

之類田地野林又は道路之橋新規き二一切

建間敷候佛事神事祭禮等輕可執行き新規之

祭礼不可取立事

一 寺社之儀住持社人代り候ハ、可注進事

一 神佛致開帳候ハ、可注進当村之神佛を他

六ページ左

国え當分相うつし開帳仕候儀有之は前

廣ニ可注進事

一 村中ニ罷在候百姓は不及申出家社人山伏行人

道心者非人等其外穢ゑ多た之類常々致吟味候て

胡乱うろん成もの住居為仕間敷候庄屋年寄不相

對たいニて他所方来候もの一夜之宿をも仕間敷候

病氣等有之行暮候て宿を乞こ候ハ、庄屋方え

相断吟味之上可致宿やど二夜と差置候ハは

七ページ右

庄屋方え可訴出事

附 親類縁者たりとも村中ニ壹ヶ月も逗留

いたし候ハは可相届事

一 村中之者之内或は立退或は逐電或ハ身

上潰候て住居難成もの有之は可注進又は

他村を子細有之て立退 来候ものハ親類たり

といふ共一切不可差置事

一 他所之者當村ニ在付致住宅度と願候ハ、其

七ページ左

もの之出所家職之様子聞届出所之間屋庄屋

致届慥成請人手形取之宗旨相改遂注進候て

可差置店借地借り等之者置候も右同前ニ可

相心得事

一 田畑子孫え分ヶ遣候儀高拾石地面壹町歩方

少く譲り分候儀御停止ニ候尤残り高も右之

定よりすくなく残すへからず然ル上は高

式拾石貳町歩方すくなき百姓は子孫并諸親類

八ページ右

之内え配分致し候事不相成候間耕作之こころ働はたらきニて

渡世為致候か相應之奉公人二なりとも可差出候

又跡式之儀あとしきハ存生之内庄屋年寄為立會書

付置後日ニ出入無之様可致事

一 能あやつり相撲又は狂言其外見せもの

之類芝居為仕間敷候私領ニても分郷或は村

隣となりニて境目紛敷地ニて致候ハ、芝居不始以前

早々可注進事

八ページ左

一 惣て遊め野良之類一切村中え置へからす事

一 堂宮山林道路ニ死人有之は其所を不替其

者持来候雑物等庄屋年寄立會様子書候て

可注進若堂宮山林ニ隠れ忍うろんひ胡乱成者

あらハ令詮せん儀品ニ寄擲からめとり捕可訴出之其外手

負おい又は不審成者他所方来候ハ、出所を尋

致附届注進之上差圖を可請申事

ママ分脱カ

一 往来之輩ともから若煩候ハ、早速醫師ニ見せ随

九ページ右

致養生能々いたわり食物等入念あたへ

看病仕置可行歩不叶先え参候儀な

りかたく候ハ、其者之在所を承届其様

子訴出可請差圖事

一 殺害人ざつがい或は致自害を候者或は倒れもの

有之は番人を付置早速可訴之火灾盗人

喧※手負之者惣て不慮成儀出来候ハ、右

同前無油断可注進事

※の字は「扁は口」「旁は花」

九ページ左

一 村中ニ喧※口論有之は庄屋年寄立會可

※の字は「扁は口」「旁は花」

裁判他村ニて喧※等有之は馳集はせあつまるへからす

※の字は「扁は口」「旁は花」

人を殺し立退候ものあらは隣郷りんごう之もの

迄出會搦捕早速可注進捕候義難叶候

ハ、跡あとをしたひ落らくちやく着所ところえ急度届其趣可

訴出事

一 田畑荒し置へからす永荒場起おきかへしきりそへ返切添又ハ

新田有之は早速可申出隠置脇より訴候ハ、

十ページ右

ママ越カ

庄屋年寄可為趣度事

ママ「うめ」カ

- 一 堀を埋<sup>ほり</sup>又八道をせはめ秣<sup>まぐさば</sup>場<sup>さいめ</sup>林際<sup>そえ</sup>を切添田畑  
仕出へからす前々方無之所え道を付間敷候  
道を替新堀不致候て不叶所有之ハ可請差

圖事

- 一 用水之掛引常々申合置争<sup>せうろん</sup>論無之様ニ可仕出  
入<sup>かたん</sup>ニ令荷擔もの有之ハ其科<sup>とが</sup>本人より重<sup>おも</sup>かる  
へき事

十ページ左

御用之人馬は不及本海道ニて無之候ても  
往来之者駄賃人足之儀昼夜にかきらす  
無滞可出事

- 一 御朱印又は御證文も無之人馬を出し候様ニ  
と申或は駄賃を不出候もの有之ハ其品ニ  
寄押置庄屋年寄立會詮議之上怪敷<sup>あやしきてい</sup>躰  
ニ候ハ、可注進事  
一 村中申合番屋を作り番人を付置火用心

十一ページ右

随分入念可申付若出火有之は聲を立候

か或は太鼓を打村中之もの馳はせあつまる集精を出し

火を消けすへく勿論御年貢米入置候蔵大切ニ

かこひ  
困かこひひ可申事

一 堤つみみ川除よけ之儀常々申合洪水之節村中之もの

出會随分可困之道橋等損候て往還くわん之障さわりニ成

候か田畑損亡そんぼう可成所は惣せうて小破之節早速可

修覆しふく自普請ニ難成所は御入用ニて可申付候

十二ページ左

觸ふれ無之候共共請取場之道橋常々無油断作

可申事

一 洪水之時堤川除困之節又は盗人ろうせき狼藉者并

火事有之ハ聲を立候か或ハ太鼓を打候ハ、

村中之者十五以上六十以下之男ハ不残出會若

不出會ものあらハ庄屋年寄可遂

せん  
詮儀候事

イイ

一 鉄鉤みたり狼みたりニ打へからす運上うん出候獵師又ハ威鉄おとし

十二ページ右

ママ

畑ニ渡置候外村中ニ隠置其段他所方相知れ候ハ、

急度可為曲事事

一 御林御立山之竹林勿論枝派下草迄運上出候

分ハ格別公用之外伐採間敷候縦令百姓持林

并屋敷四壁之木ニても目立候木伐遣候ハは

ママ「よし」カ

先書付差出得差圖可伐之堤ニ有之候草葭

等刈取間敷候

但堤内外樹木之類并作毛仕付申間敷事

十二ページ左

一 入會之野山面々之持山ニても草木之根堀取

間敷候鶴之背を入候儀可為停止田畑之山崩

砂入等無之様山林苗木植立可申事

附山中ニて焼畑いたし来候所ハ格別野之火付候儀は

停止之事

一 諸作第一能種を多らみ蒔耕地可入念荒作り

之様致候ものあらハ急度可令詮儀独身之

百姓長煩又ハ幼少ニて親ニはなれ耕地仕付難

十三ページ右

成候もの有之ハ庄屋年寄五人組頭立會村中ニテ

助合田畑不荒様可仕事

附地所不相應田畑諸作他ニ替り作劣耕作不精成

者有之ハ吟味可仕検見節と引方相立不申事

一 常々耕作并商賣等も不致家職之稼無之

者村中ニ有之ハ遂吟味其趣可訴之御年貢万一

未進出来候ハ、相互ニ申合立行候様可致候若又

了簡ニ難及時は未進少之節遂穿鑿一跡

十三ページ左

之内を以皆済仕せ相残田畑ニテ取つゝき速ニ

質入等ニ致置田畑取戻し候様可仕候分限不相

應致未進身代沽却候ても御年貢不足候ハ、

ママ

村中可為弁納候間常々無油断様致間敷候

一 田畑年季を定質物ニ預候節双方より證文取

為せ庄屋年寄可致加判若又構私曲加判仕たる

者あらハ可申出事

一 博奕惣て賭之諸勝負或ハ百姓講と号或ハ

十四ページ右

高に事寄博奕ニ似たる義何ニても一切不仕之

若違背之輩有之か又は右之宿等致候者

あらハ早速可訴之事

一 百姓不似合之風俗いたし長脇指を帶喧

※口論を好このみ或ハ大酒を呑致酔すいきやうぎやうせき狂行跡悪

※の字は「扁は口」「旁は花」

敷者有之は可訴出事

一 常々刀を帶し候儀仕間鋪候并子供ニ限かぎり親類

之内侍さむらい奉公ニ出其後在所え引込罷在候やから族先

十四ページ左

主方少々合力杯請候共刀を帶候儀御停止ニ候

若詮儀之上おこた怠るニおゐては庄屋年寄可為

曲事事

一 他所え参二夜と泊とまりり罷在候程之儀ハ庄屋え

相断可罷越若又他国え奉公ニ出候か又は用

事候て相越候ハ、其子細庄屋年寄五人組え相断

公事訴訟ニ付他之御役所え出候ハ、其趣庄

屋年寄五人組へ相届當御役所え可相届事

十五ページ右

一 御年貢皆済無之以前穀物他所えむさと

不可出之金銀納為ニ米賣候ハ、先米納之

員数を積納米程上米を拵置次之余米を

賣可申事

一 米納之儀庄屋年寄立會青米しいなくたけ

粃糠等無之様致吟味舛目不切様可入念事

一 御年貢金銀庄屋方え取集扣帳ニ納候度々

金銀請取手形通帳ニ致相渡扣帳ニ押切印形

十五ページ左

致遣置後日ニ出入無之様可仕事

一 御年貢米銀納所之節庄屋方々地主え銘々手形

遣之庭帳ニ入念書付之可致判形不念ニて手形

無之出入後日ニ訴候共取上間敷事

一 從 公儀被 下候人足扶持等當座ニ銘々割

渡帳面ニ請取候趣書付させ印形可取置惣て継合

勘定不可致事

一 毎年御年貢免状出之村中之もの披見為仕

十六ページ右

庄屋方ママ村中大小百姓出作之者ママえも不残相

相觸寄合候て致免割いさい委細書付小百姓も疑うたがわしく敷

不存様其わけ訳為申聞右書付為写立會披見仕候て

書付銘々印形可取置村中夫錢小入用と御年

貢入交り不申様差別さへつを立可割合算用違無

之随分入念割符可申事

一 御年貢米銀并村入用請取書付庄屋方より

百姓老人前ニ可相渡置百姓方庄屋方之帳面ニ

十六ページ左

印形取置候得共相濟儀と心得右請取書付

不相渡も万一有之は向後けうこうは急度相改書付

可相渡候村入用ニは惣高割けつけ毛付高割家

別割人別割ニ致来候品々可有之間其名目

混乱こんらん不致様一廉かどをわけ訳書付相渡置右小手

形寄よせあつめ集申候得は年々役所え出し候村入用ニ無

相違様いたし置後日ニ出入無之様可致置候事

一 手代并妻子召仕等ニ至迄金銀米錢衣類るい諸

十七ページ右

道具酒肴其外かるきもの物おとづれニても音信礼物一切仕

間敷候若貸物借物或ハ押賣押買何事ニよ

らす不作法之儀いたし候ハ、隠かくしなく在躰ありていニ

其趣可申出隠置後日ニ相聞候ハ、庄屋

年寄可為越度事

一 自分之家来并手代之召仕参口上ニて申儀は

不及申自分并手代之印形も無之書付を持

参候て何事を申付候共一切承引不可仕早速

十七ページ左

可注進事

一 手代村々ニ相廻候節御定之木銭飯米代相渡

候間所ニ有合野菜を以一汁一菜之外馳

走ケ間敷儀堅請不申様申付候条酒肴其外

何ニても調置間敷候若整置此方え不入ニ付

寄合飲喰村入用ニ割掛候ハ、庄屋年寄為

越度無差圖人馬を集置申間敷事

一 村中中之夫銭懸り物小入用等之儀随分

十八ページ右

庄屋年寄遂吟味入用多無之様ニ入念右入

用少も不のこらす残 当座ニ委細書付置居合候百姓

も印形可仕此外別帳を作り置間敷庄屋方

右帳之外掛りもの割掛候ハ、可為曲事事

一 毎年二月中前年之村入用帳写大小之

百姓印形相そろうい揃可差出事

一 御料所国々百姓共御取箇夫食種貸等其外とりかぶじき かし

願之儀ニ付強訴徒黨こうそとどうたいさん逃散候儀は御停止ニ候処

十八ページ左

近年御料所之内も右躰之願筋ニ付御代官陣

屋大勢相あつまり集り致訴訟候儀も有之不とくけ届至極ニ ※「届」のフリガナの「とく」  
には濁点がある

候自今以後じこんいごきびしく殿敷吟味之上おもきさいくわ重罪科ニ可被行おこな

候条ぜいじう御代官支配しはいかきり限 百姓共え急度申渡村々

請書印形取之自今以後五人組帳ニ書かきのせ載置

候様寛延三年正月被 仰出候事

一 百姓衣食住并身持稼業等之儀ニ至迄前々  
ママ度カ

方数渡被 仰出御制禁之筋も有之処不應

十九ページ右

其身等不よろしからず宜もの有之趣相聞候ニ付猶又宝

曆九卯年被 仰出其趣百姓共之急度

申渡請書印形取之候通 弥いよいよ無怠慢可相守事 ※「弥」のルビ「いよいよ」の傍

線部は躑字の「く」である

一 往古わうこ檢地けんち之節致高請百姓之外けうこうもんへいひさしハ向後門堀庇

等之普請致間鋪候たとへ右高請いたし候

百姓之家わかれ親類たり共都て是迄門すへて これまで

堀庇有之分ハ格別新規ニは難成条此旨を

可相守段宝曆十四年申年被 仰出其趣百姓

十九ページ左

共え申渡請書印形差出候通弥急度可

相心得事

一 近年在方村々之もの共耕作こうさくを等閑なをさりニい

たし却て困窮こんきう之儀申立奉公ニ稼かせきニ出ル

もの多く所持之田畑を荒置候類有之由相

聞へ不埒らち之至ニ候以来人別割合何人迄は奉

公ニ出候ても残人数ニて耕作こうさくハ勿論村方之差さし

支無之候や否村役人共相糺たし実々無據子細

二十ページ右

にて奉公ニ出度候旨相願候もの有之候ハ、右

割合之人数迄は村役人共承届年季を

限<sup>かぎり</sup>奉公ニ出候様可致候若村方之指<sup>さしつかへ</sup>支<sup>かへり</sup>を不<sup>みず</sup>顧

奉公ニ出持田畑を荒候儀等有之候ハ、当人は

勿論村役人共可為越度旨安永六酉年

五月御觸有之候間右御書付之趣年々無断

絶小前百姓<sup>ほうきやく</sup>迄度々為讀聞忘<sup>ぼうきやく</sup>却不致様可

二十ページ左

申渡旨同年六月御勘定奉行中<sup>ち</sup>申来候間

村役人共<sup>いしつ</sup>違失致間敷候

右之條々<sup>ち</sup>老ケ年ニ兩度村中大小之百姓寄

會為讀聞此旨常々無油断堅可相守若

違背之輩有之は可為曲事もの也

二十一ページ右

天保十三壬寅年三月